



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

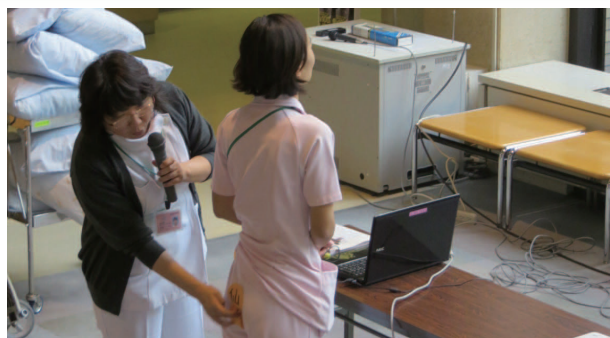
皮膚・排泄^{せつ}ケア 認定看護師ってなあに？

こんにちは。皮膚・排泄ケア認定看護師の清政一三です。市民病院には皮膚・排泄ケア認定看護師が1人在籍しています。

皮膚・排泄ケアの看護分野は、主に「人工肛門のケア」と、床ずれをはじめとする「皮膚トラブルに対するケア」を専門に行います。

「人工肛門のケア」では、手術で人工肛門になった人が、新たな排泄習慣を自分のものとするためのサポートをしたり、日常生活で困らないようなケアの方法を一緒に考えていきます。

「皮膚トラブルに対するケア」については床ずれを中心としたケアを行います。入院中の予防としてマットレスやクッションの整備、自宅で床^{しょうきよう}ずれができてしまった人が入院した場合には、褥瘡^{じよくそう}対策チームを中心に処置方法の検討、ベッド環境の整備、栄養状態の評価などを行い、少しでも早く治るようにチームで協力して対応しています。



また看護の力を高めるために、院内で床ずれについての研修を行い、スタッフ教育にも携わっています。

これからも皆さんと共によりよいケア方法を模索したいと思っています。ご本人・ご家族が人工肛門や床ずれなどでお困りの人、外来や病棟で見かけたら、気軽にご相談ください。また、希望者には人工肛門を持つ患者さんの外来受診に合わせて、看護外来という形で相談を受け付けています。人工肛門の装具の選択から日常生活のなかで困っていることなど、気軽にお申し出ください。

碧南の歴史へのいざない

NO.12 今の棚尾橋は 4代目！？

下の写真は、現在の棚尾橋です。実はこの橋は4代目の橋であることをご存知ですか。

右下の写真は、初代の棚尾橋です。当時棚尾^{すき}のなかで、対岸地帯に持つ耕地を耕すために荷物や鋤^{すき}をカゴに入れて渡舟で行き来している人がいました。しかし、雨風が強いときなどは矢作川を渡ることができませんでした。ほかにも通行の不便を感じていた人は多く、棚尾村・大浜村の有志が声を上げ、初代棚尾橋が架けられることになりました。



△現在の棚尾橋

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

初代棚尾橋の長さは236間（約429m）の板橋で、明治23年（1890年）に完成しました。1回につき4厘の渡橋料金がかかり、別名「償却橋」とも呼ばれたそうです。

その後、当時愛知県下で模範的な橋だと言われた2代目棚尾橋が、大正10年（1921年）に鉄筋コンクリートで造られました。長さは225間（約409m）、幅3間（約5.5m）でした。ここから官営となったこともあり、無償で通行できるようになりました。3代目棚尾橋が、昭和30年（1955年）に造られ、今の4代目が、昭和42年（1967年）に造られました。長さ441.7m・幅10.5mになります。現在の橋になって、すでに長いときを経過していますが、今も耐震工事をしながら現役で頑張っています。



△初代の棚尾橋（碧南市所蔵）